

平成26年度 全国高等学校総合体育大会バスケットボール競技 第67回全国高等学校バスケットボール選手権大会

(男) 2 回戦

試合日: 2014/08/03
開始時刻: 13:20~
会場: 船橋市総合体育館
コート: Aコート
試合順: 第3試合(男) 2 回戦

Team A 大阪学院大学 (大阪府)	108	<table border="1"> <tr><td>27</td><td>-</td><td>17</td></tr> <tr><td>23</td><td>-</td><td>16</td></tr> <tr><td>27</td><td>-</td><td>13</td></tr> <tr><td>31</td><td>-</td><td>41</td></tr> </table>	27	-	17	23	-	16	27	-	13	31	-	41	87	Team B 県立能代工高 (秋田県)
27	-	17														
23	-	16														
27	-	13														
31	-	41														

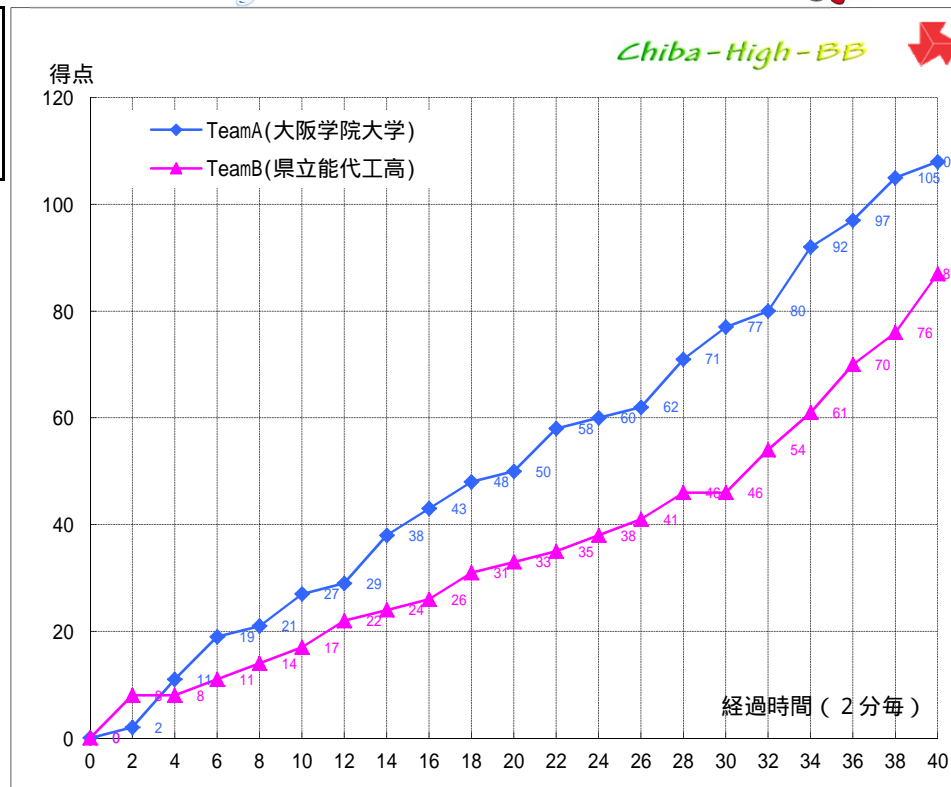
TeamA(大阪学院大学)

PT	選手名	得点	3 ^分 イント 成	2 ^分 イント 成	フリース 成	反則	リバウンド			アシ スト	フロッ ク ショット	ターン オーバー
							off	def	計			
4	吉岡 信友	17	3	4	0	2	2	1	3	5	0	2
5	井福 普太郎	13	0	5	3	0	3	2	5	1	1	1
6	斎藤 直也	4	0	2	0	1	1	0	1	0	0	1
7	網井 勇介	25	2	9	1	3	3	7	10	7	0	4
8	尾関 敦弥	15	0	7	1	4	3	3	6	6	0	2
9	木下 誠	26	5	5	1	1	1	6	7	3	2	5
10	川上 凜太郎	2	0	0	2	4	0	1	1	0	0	3
11	上田 健斗	2	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0
12	安永 海斗	4	0	2	0	0	0	0	0	1	0	1
13	藤田 拓也	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
14	坂本 和優	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
15	寺下 直示郎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Team / Coach:						0	9	13	22			0
合計		108	10	35	8	15	23	33	56	23	3	20

TeamB(県立能代工高)

PT	選手名	得点	3 ^分 イント 成	2 ^分 イント 成	フリース 成	反則	リバウンド			アシ スト	フロッ ク ショット	ターン オーバー
							off	def	計			
4	長谷川 暢	28	4	7	2	2	1	2	3	2	0	5
5	荒木 直	0	0	0	0	1	0	1	1	1	0	0
6	中村 碧杜	14	0	7	0	2	1	3	4	5	4	4
7	渡邊 竜也	6	2	0	0	1	0	0	0	1	0	0
8	幸崎 龍馬	8	2	1	0	2	1	0	1	5	0	2
9	小室 望海	13	3	1	2	2	0	0	0	4	1	2
10	斉藤 大輔	2	0	1	0	0	0	1	1	0	1	1
11	金久保 翔	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
12	猪狩 涉	2	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0
13	藤原 健人	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
14	盛實 海翔	11	2	0	5	0	0	0	0	0	1	0
15	長谷川 翔	3	1	0	0	3	0	2	2	0	0	0
16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Team / Coach:						0	4	11	15			0
合計		87	14	18	9	15	7	20	27	18	7	15

TO/CK/SS 千葉県高体連バスケットボール専門部所属高校バスケットボール部



	前半(1-2 ^分 リフト)		後半(3-4 ^分 リフト)		延1	延2	延3	延4
TeamA	-	-	39:02	-	-			
TeamB	14:04	17:32	32:07	34:43	36:50			

【戦評】

第1 P、大阪学院はハーフコートマンツーマン、能代工業はオールコートマンツーマンプレスでゲーム開始。序盤、能代工業は# 6の高さを活かしたシュートや激しいディフェンスから得点し8対2とペースをつかみかけるが、大阪学院は1対1や速攻、# 4の3 Pで得点を重ね逆転する。能代工業はディフェンスを1-2-2ゾーンに変えるが、大阪学院はパスをうまく使って攻め27対17とする。第2 P、能代工業は# 4を中心に得点するが、大阪学院はインサイドとアウトサイドがバランスよく得点し、50対33とリードして前半終了。第3 P、能代工業はオールコートマンツーマンで激しくプレッシャーをかけるが、大阪学院はスピードあるバスアンドランからチャンスを作って確実に得点し、77対46とする。第4 P、能代工業はハーフコートでも激しいプレスディフェンスをしかけ、オフェンスでは3 P 7本を含む41点を取って最後まで粘るが、終始速い展開と確実なシュートで安定した試合運びを見せた大阪学院が108対87で勝利した。

審判	宇地原尚彦 / 鈴木 宏 /	戦評	中田 都
----	----------------	----	------